

臨床検査に関するお知らせ



株式会社セントラル医学検査研究所

TEL(本社)029-225-8858 (下館)0296-28-5900

先生各位

平成 26 年 9 月

A-14-26

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、蛋白分画検査におきまして、セルロースアセテート膜電気泳動法に代わり、新たにキャピラリー電気泳動法による測定に変更させて頂きたくご案内致します。

何卒ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 実施日 平成 26 年 11 月 22 日 (土) ご依頼分より

◆ 変更内容

2014・15年 検査案内	項目 コード	検査項目	変更内容	新	旧
p. 7	40・50	蛋白分画 (血清・尿)	検査方法	キャピラリー電気泳動法	セルロースアセテート膜 電気泳動法
			基準値 ※	A/G : 1.3~1.9	A/G : 1.5~2.5
				ALB : 55.8~66.1 (%)	ALB : 60.2~71.4 (%)
				α 1-G : 2.9~4.9 (%)	α 1-G : 1.9~3.2 (%)
				α 2-G : 7.1~11.8 (%)	α 2-G : 5.8~9.6 (%)
				β 1-G : 4.7~7.2 (%)	β -G : 7.0~10.5 (%)
				β 2-G : 3.2~6.5 (%)	
γ -G : 11.1~18.8 (%)	γ -G : 10.6~20.5 (%)				

※ 基準値は血清のみです。

造影剤などの薬剤を投与された場合には検査値に影響がみられる可能性があります。

新別紙報告書(泳動図)見本は次面をご参照下さい。

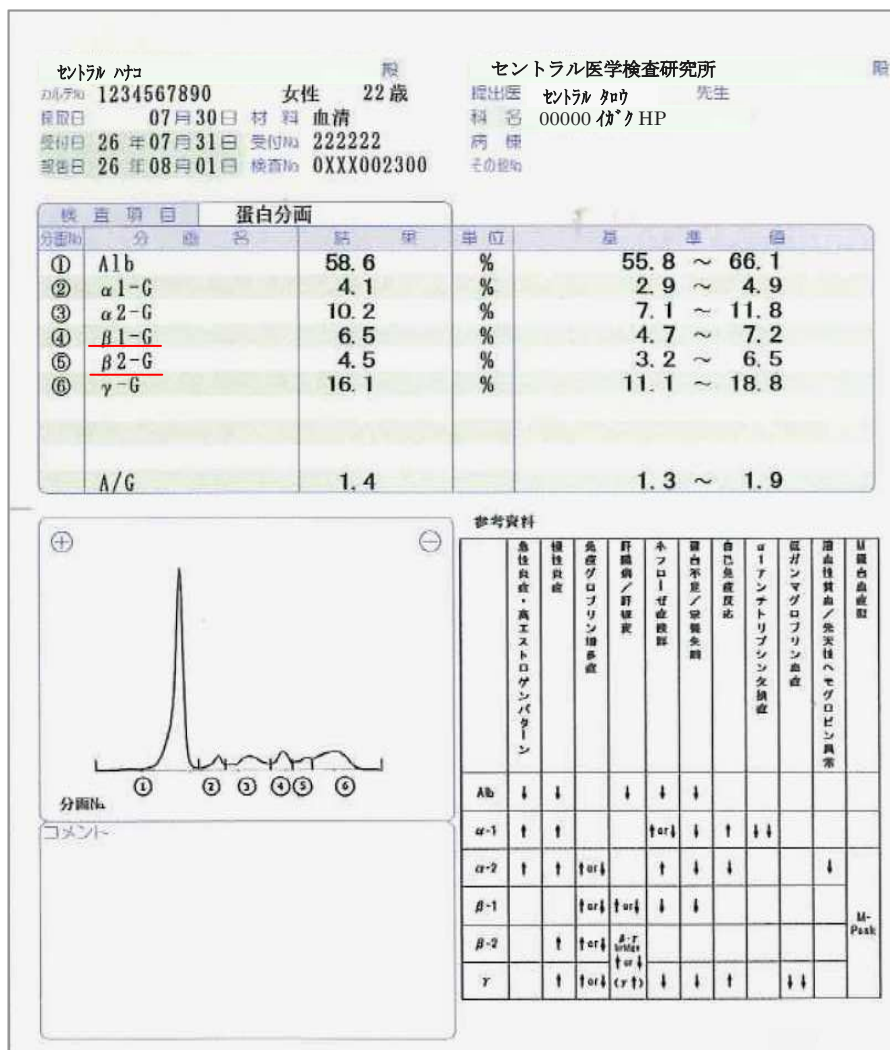
●●● 蛋白分画 ●●●

このたび、キャピラリー電気泳動法による測定に変更させていただきます。これに伴い、基準値の変更がございます。

本法はβ分画が2つに分離されます。β位モノクローナルプロテイン（M蛋白）はβ2-グロブリン領域にピークの出現が多く、2つに分離できることによりM蛋白血症（多発性骨髄腫等）の早期発見の可能性が高まります。

また、β位以外のゾーン（α2あるいはγ位）に存在する微小なM蛋白も検出可能となりました。

◆ 新・別紙報告書（泳動図）見本



◆ 参考文献

伊藤 喜久：Medical Technology 39 (3)：278~284,2011. (検査方法参考文献)